

記念すべき新年に想う

会長 飯田 精鷹

明けましておめでとうございます。皆様の健康と平和をお祈り致します。す。記念すべきと申しましたのは、昭和八十年、戦後六十年、千代田創立廿年を迎えたからであります。先ずはこの節目の記念すべき新春一月一日に我等が敬愛措く能わざる岳精先生が、家元になられました。その家元と吟道七十年を慶祝し、今尚豊饒たる横山大人の過ぎし日々と、先生との関わりを想い起してみたい。昨夏、宗家は主だった人を集めて、

院吟日本流精岳

あゆみ

第 2 5 号

平成 1 8 年 1 月

報 弘 会 精 岳 田 代 千

人々への想いと、感謝の気持ち一杯です。二代目宗家を宜しくお願いします。続いて宗嗣も応えて「今は只大変な事になった」という印象で、一生懸命努める覚悟です」と。宗家との出逢いは、昭和廿一年春、故金成増彦氏（当時富士電機勤労課長、後社長、岳精流後援会長）から川崎工場に背筋の真直な好青年、横山達雄を訪ねるよう紹介された時に始まる。爾来六十年の薫陶を受けて来た訳です。その折、来寮され耳にした朗々と素晴らしい短歌の朗詠は、敗戦の虚脱状態の私共の生きる希望の音律であつた。その金声とも言ふ美声と、情緒連綿は、当時十九歳瘦せ浪人の心の滋養となつた。宗家廿八歳の頃です。この頃GHQの差し金で、NHKラヂオ放送は漢詩よりも和歌であり、横山達雄氏の声が放送された。戦後の芋作りの昼休、ラヂオを囲んで耳を敬て聞き惚れた。その後小生は進学、宗家は益々会社の重職へと進まれたが、季節の手紙は筆まめ、愛情の言葉を頂いた。三十年代、市の成人学校に開設された漢詩朗詠教室で、忙しい合間を縫ってご指導の宗家の姿が新聞に掲載

され大評判であつた。私は経済大國を目指し東奔西走の企業戦士の一人。四十年代、東京勤務となった私に吟狂の樋口氏が横山先生を紹介してくれと言う。快く富士電機の本社で会つてくれた宗家、吟剣詩舞コンクール出場の樋口氏を励ましてくれた。また小生には廿五年振りに、お眼にかかった金成社長。社長室の正面には鶴鶴楼に登る「更に上る一層の楼」が飾つてあつた。宗家も社長も好きな詩でした。社長室からの帰り、宗家から「飯田君もソロソロ人生の後半、漢詩、吟を」と説諭された。翌五十一年青森へ転勤。旅立つ私へ宗家から津軽は俺の故郷と、人的なご紹介から地域の特徴まで懇切に教えて頂いた。この頃から宗家のレコードを沢山集め、その節調を、声を、心を学び始めた。そして青森、国分寺、岡山と詩吟学院に首を突込み、昭和五十二年に発足した岳精流へと向かつた。恩師の元へである。六十年以降は次回。この一月に磯田副会長が本部の副幹事長に抜擢された。当人の名譽は勿論の事、千代田にとつても、この上ない喜びである。心からお目出度うを申し上げたい。ご高承の通り、磯田さんは神童と言われた栃木烏山の人、人情に厚く、人の世話をよくされる人、新しい天地で又大いに羽ばたいて戴きたい。

平成十七年温習会十一月廿六日南大塚ホールで開催

晩秋に熟年パワー溢れた一日



創立廿周年を来年に控え、プレ大会の雰囲気準備に入ったが、そこは吟大好きな熟年男女、内容にもプログラムにも担当教場の皆さんの気合いのこもった温習会であった。飯田会長が奥様の健康がすぐれないため欠席されたが、本部より坂井龍鷲事業部副部長、池田龍翔青年部副部長と次の岳精流を背負って立つと期待の気鋭の先生方を来賓としてお迎えし、磯田副会長以下全員できりっと引締まった進行であった。耳塚東陽町教場長の司会で、物故会員への黙祷で始まった今年の注目の内容は、無伝、初伝、中伝以上に別れた独吟コンクール、吟剣詩舞道吟詠コンクール入賞者の凱旋吟、武道館合吟コンクール入賞の男女出場者披露吟、詩歌研修会の企画構成吟「人生模様」と例年通り盛り沢山。独吟コンクールでは後記の方々が榮譽を獲得し表彰された。凱旋吟は入賞の廿二名が東日本大会十位の子澄泉（東陽町）を先頭に四位入賞の林龍吾神田教場長をトリに堂々の発表。披露吟は、十数回の厳しい訓練による個々の際立った吟力向上に刮目させられ、来年の男女チームの武道館が期待される。

企画構成吟は詩歌研修会メンバー手作りで十篇の絶句、律詩、俳句、新体詩に剣舞が花を添え、演歌、浪曲と趣向を凝らせ人生の達人達の生き様を演じ満場の大拍手であった。ご来賓の両先生は、四本の高声で格調高く温習会を祝って下さいました。有難うございました。懇親会は温習会の熱気が、そのまま持込まれ楽しい交歓が続けられた。全員で、前日遅くまで取組まれた担当の丸の内第一、東陽町、丸の内女子教場の皆さん、映像を担当して下さいました前田達泉、音響全般を構成された酒井帆山さん、お陰で素晴らしい、そして楽しい温習会でした。独吟コンクール入賞者

◎無伝の部
優勝 犬飼 堯（丸二）
二位 吉田 昭子（新宿）
三位 山本 忠次（ハザマ）

◎初伝の部
優勝 内山 雅泉（神田）
二位 粕川 紘泉（神田）
三位 高橋 湘泉（ハザマ）

◎中伝以上の部
優勝 八田 玉山（丸二）
二位 植村 太山（東陽町）
三位 渡辺 幸山（草加）

温習会コンクールに参加して
丸の内第二 犬飼 堯

この度の温習会で無伝の部優勝を果たしました。（中秋の月・蘇軾作）吟詠中は、ただ詩を間違えないようにという思いだけが頭の中を過ぎるだけで、終わっても果たして上手くいったのかどうか、まるで分からない状態でした。席に戻って先輩諸氏から、大変良かったと聞かされて前回次点だったからひよつとすると入賞出来るかもと意識し出したのです。それが優勝とは：何ともはや驚きました。しかし、このことは岩崎先生のご指導と、先輩諸氏の応援の賜物と心より感謝しております。まだまだ若輩者の小生ですが、今後とも宜しくご指導のほどお願い申し上げます。

平成十七年度昇伝者
お目出とうございます（敬称略）

皆伝 ハザマ 鈴木 龍成
奥伝 丸の内第一 江口 越風
丸の内第二 元廣 恵風
全 窪田 香風
東陽町 萩 裕風
この他、皆伝師範四名、奥伝師範六名、中伝準師範廿二名の方々が合格されております。

『私の心に残る一詩』その十三
東陽町副教場長 花山 桜風

中秋の月

蘇 軾

暮雲收盡溢清寒 銀漢無聲轉玉盤
此生此夜不長好 明月明年何處看

東陽町教場が出来たばかりの頃、よくこの吟を透感のある9本の声で吟じていた人がいました。間もなくその人はまるで自分の人生を見通していたかのように、五十八歳の若さでこの世を去ってしまいました。凜と冷たく澄んだ秋から冬にかけての月には、大きな宇宙の中の小さな地球が見えるような気がいたします。

ある時、宗家（家元）の「中秋の月」を生で聞く機会に恵まれました。なんと承句の後、転句の後に期せずして会場に拍手が起こったのです。そして吟が終わった後は、いつまでもいつまでも拍手が続きました。きつと会場の人々の心が、この吟を通じて一つになったのでしょうか。私もこの吟を時々吟じてみありますが、なかなか難しく、うまく吟ずる事が出来ません。ただ少しでも上手くなれるよう年を重ねていきたいと思っています。そして限りある命だからこそ、今日一日を楽しく大事に過ごして参りたいとも思っています。

十七年度の温習会でも、この吟が多くなりに吟じられました。吟を通して感じ合える仲間がいる幸せに感謝しています。廿周年に向かって吟友の皆様の健康を心から祈念いたします。



千代田創立廿周年記念大会

（準備委員会レポート3）

十二月の準備委員会報告を致します。一年間に及ぶ委員会は、その役目を終え、本年一月からは「実行委員会」へと移行します。「実行委員会」は従来の準備委員会のメンバーに十部門から構成される各部門及び「企画構成吟」「廿年史」「プログラム」「祝賀会」の四プロジェクトのチーフをもって構成されます。第一回の実行委員会は、一月十日十五時より、幹事会の終了後行

われます。各担当部門チーフと、四プロジェクトの全メンバーが集まることとなります。

記念大会の最大のテーマである「企画構成吟」につきましては、

「大江戸」をテーマに、三月末までに大綱が決定される予定です。

「廿年史」その他のプロジェクトにつきましても、それぞれ早急に立上げていくことになっております。

次に皆様からお寄せ頂きましたアンケートの集計結果を報告致します。

「単一の教場色を薄め、会が一体となった共演としたい」「漢詩を中心とした吟で構成したい」

「今様、演歌、流行歌等を適宜組込みたい」との貴重なご意見が寄せられ、アンケートの回収率、六〇%以上となりました。ご協力感謝致します。

その他の項目につきましても、この結果を十分に参考とさせて頂き、今後の計画作成の中で折り込ませて頂きます。

さあ、いよいよ廿周年の記念すべき年の始まりです。

全員参加を旗印に、楽しい「記念大会」となるべく、総力を結集

しましょう。

第三八回全国吟剣詩舞道大会

女子二位・男子八位と揃って入賞

十一月十三日（日）日本武道館で開催され、本部男女2チームのメンバーとして千代田からも多数が参加、厳しい練習を重ねた成果を十分に発揮した結果、女子チームが堂々の二位、男子は八位入賞と大健闘であった。大トロフィーを獲得し納得の女子と対照的に、出場男子廿三チームのトップであったが、二年前と同順位の男子は、宿題を残したとも言える結果であった。

全国吟剣詩舞道大会 合吟コンクールに出場して

丸の内女子 板橋 禮泉

「二位、五十二番岳精流日本吟院女子」の発表に、私達は「ワッ」と歓声を揚げた。吟題は頼山陽作「楠公子に訣るるの図に題す」八本。五月より十数回の特訓を、渡精華、前澤龍淳両先生より受けての出場で、た。発声練習で、六本、七本の声が八本の声になっていく合吟の不思議さを知りました。私は二度目の出場でしたが、今回は早い時期から吟の内容を深く追求するご指導でした。

勢いよく吟ずるところ、静かに詠ずるところ、抑揚をつけるところ等々、とても細かい注文が出されたのです。うまくいってないところが、やっとう来たかと思ったり、最初うまく出来ていたところが駄目になる、何回も何回もくり返し詠って駄目に叩き込んでいきます。初めはバラバラだった全員の気持が、回を重ねる毎に一つになってゆき、一体感が出て来ます。こうして五十五人全員が当日無事に会場出来る事を願って練習しました。当日、今まで練習した事を必死に出したつもりでしたが、皆で一斉に出る「草木」に力強さが足りなかったようでした。

新しい試み

神田 福島 起風

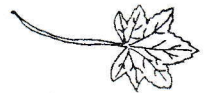


平成十七年十月十三日、井田岳精会創立廿五周年記念吟道大会に、神田教場の十名が千代田岳精会の代表役として参加し、賛助吟詠をさせて頂きました。当日は、男子五名、女子五名の組

合せて、吟題は「汪倫に贈る」李白作でした。池田康山さんと粕川紘泉さんがそれぞれコンダクターを持ち、特に出だしに気をつけました。全員無事終わって、ホッとしました。ところがこの合吟の際、滝田精芳幹事長が、この合吟について特に触れられ「今回の合吟は、これからの新しい試みの一つという印象を受けた」と披露され、一度に注目されました。男子と女子の混成合吟では、声の高さが違う、だから合せ方が難しい。最初は音楽テープやCDの何番の音楽がスタートしやすいとか、試してみましたが女子の皆さんが出だしを捕えにくく、大会出席の二、三日前に、コンダクターで出だしを鮮明にし、先導者を決め、その後一斉に合吟に移ることにしました。女子八本と男子二本の組合せとか、女子七本と男子一本のほうが良いとか、色々議論しました。実際に舞台の印象は、どうだったのか。女子の声が消されてしまったというようなことは無かったのですが、合吟は本当に難しいものだなと思います。それにしても、滝田幹事長のお話で、神田教場の合吟チームも、この日大いに勇気づけられました。挑戦する機会に、何でも新しい事に挑む一層高めたいと思います。

年男。年女

今年の干支は
丙戌（ひのえいぬ）です。



楽しく吟ずる

丸の内第一 稲垣 藤風

平成五年六月、吟の音調の魅力に引かれて入会。当時本社七階のあの重厚な講堂で飯田先生直々の指導を頂き、以来十二年余り。

今年の年女、八十四歳。親の時代六十、七十は随分お年寄りと感じていたのに自分が八十台とは。

大正末、関東大震災から始まって戦前、戦中、戦後目まぐるしい時代が終わって平和な現在。満ち足り過ぎるの当世情の現状。煩わしい世情を感じ乍ら、吟に打ち込める自分の境遇を感謝しつつ、吟友との木曜日の教場と千代田岳精会の幹事さん方のお骨折りの行事の数々。有難うございます。

吟友との繋がりが

東陽町 赤根 惇山

久しぶりの年男です。振り返れば明治生命入社七年目に迎えた初めて

の転勤は富山支社、そこで上司の磯田龍真副会長に巡り会いました。仕事だけでなく高級クラブでの酒の飲み方、お座敷での芸妓相手の踊り方まで多くの薫陶を受けました。そして川崎支社、そこでは岩崎龍慶氏とご一緒。十九年目に神戸支社から松江支社に「桑乾を度る」で赴任。その大先輩支社長が飯田精鷹会長。そして定年間の東陽町勤務、残業後に喫茶室をのぞくと詩吟勉強後の一行。今は亡き平井紅風、若い菅原琴風、太田翠風の美人連に誘われ「山中幽人と対酌す」でつい一杯。定年と共に勇んでの入会が六十歳。後輩には武田弘山、前田道山氏。前も後も立派な吟友が重なり押し潰されそう。

還暦？

鍊水 岩本 行山

自分が還暦を迎える事など夢にも思わなかった事です。赤いチャンピオンコは多分私には似合わないことでしょう。

年齢を感じ始めたのは趣味の世界の変化からでした。子供の頃から親しんでいた野球で、打っても走れない、球が飛んできても第一歩が出ない、と衰えを認め退部。乗馬、ヨットも人と競う競技会やレースは鬱陶しくなりマイペースでの楽しみに変わ

りはじめました。そんな中、詩吟、投扇、居合と日本的なものに心の安らぎを覚えるようになりました。詩吟では、歴史ある地元市川の探索時や、出張先で立寄る旧蹟で吟じて、一時その世界に浸るという時空を跨ぐ楽しみを見出しています。

今年の目標

東陽町 八尾 葉山

明けましてお目出とうございます。昭和九年生れの私は、何と七回目の戌年を迎えたことになりました。振り返ってみますと、還暦の年に始めた詩吟も、もう十二年の歳月を経過したことになります。

生来の悪声で高音の出ない声帯、かろうじて水四本で始めた吟詠でしたが、その後先生方のご指導で水三本まで上がり、昨年から水二本に挑戦している昨今です。今年の目標は、この水二本の吟詠を完成させることです。

そして今一つは「はなろぐ」即ち私のパソコンでの「花の日記」です。インターネットの世界で、いま最も流行しているのが、「ブログ」です。今年三月には五百万人の人が開設するだろうと言われている。ホームページよりも手軽に作れるし、人それぞれが色々な情報を発信して楽しんでいます。

私は昨年六月に立上げて以来毎日のように、四季折々の花の情報を写真をつけて発信し続けてきました。そのためカメラを片手に、花を求めて歩き回るのが、今の生き甲斐になっていきます。そのためには毎日健康で、心に適した生活を築き、事が必要です。今年には本気で声を鍛え、そして「はなろぐ」(HanaRogu) (更新)を年に少なくとも三百日発信したいものです。

吟詠一筋遊行の道へ

清水 寺沼 智山

老来、新年に想う。今、御仏の謂う林住から遊行の期に入って、生きてきた身の倅せを感謝し、更に次世代に遺せるものを求めて、努力せねばと念じております。それにしてもおぞましい世情ですね。人が救いを求めて信ずべき宗教が、戒律を尊重するイスラム、愛を説くキリストも何故人の心を、命までも奪うのでしょうか。私達は子供の頃から仏の慈悲を信じ、孔孟に通ずる儒の教えを受けて学研期を了えました。更に鎮守の杜が近くにあって、神を敬い清く、直く恥を知れと教えられてきました。何はなくともそれなりに楽しい平和

な昭和の時代でした。この心の和らぎを願って止みません。わが家も曾孫三人になり元気に育っています。孫等が結婚に当り私が贈った本を読んで、しっかりと実行している由「あたたかい心を育てる育児の原理」というもの。「生まれたら、まず母の初乳を飲ませよう。しっかりと抱きしめて觸れ合いを大切に」こうした育て方が、次の学研期の忍耐と努力を体で覚え、充実感を味わう原点になり、やがて一家を構えて全てを仕切る家住期を了える事が出来ると言う考え方です。

私は今迄のいくつかの趣味の生活から離れ、これからは吟詠一筋に打込んで随々、遊行の道を楽しみたいと存じます。吟友諸兄姉の心からのご指導ご鞭撻をお願いする次第です。

詩吟は友

丸の内第一 魚井 啓風

もう七十二歳、振り返って見ればオンチオンチと言われて(兄弟姉妹)はや七十二年。妹からは根深節(関西弁)と言われた。ネブカとは葱の事である。声は好いが？節が無いと笑われた。だが下手の横好きと言うか唄が大好きです。小唄七年、民謡八年、詩吟廿年とウナって来た。飲める時だけ出席？ある先生からオン

チは千人に一人位、ただ君は発声が間違っている、水二本で吟じてみなさいと言われた。皆の前で迷惑を掛けながら一所懸命習ったおかげで声だけは出るようになった。詩吟は友です。私の一生の友として吟じていきたいと思えます。



「皆伝」審査を受審して

ハザマ教場 鈴木 龍成

入会以来十八年、節々で昇伝、師範位の受審機会を経してきました。その都度新たな緊張感を感じたものです。今回の「皆伝」受審は、そうした段階の中で最高の「重み」を感じさせられるものでした。「皆伝」という言葉の持つ毅然さに比して、これまで自分の辿ってきた吟の道の頼りなさには忸怩たるものを感じた次第です。当日の審査は、図らずも宗家で担当のグループに入り、一層の緊張感を覚えるとともに、宗家最後のご指導の機会に浴したことに感動いたしました。課題吟は二題、いずれも私の好きな吟でしたので秘かなる自信

も抱いて臨みましたが、「青山の歌」をとの宗家の指示のお声には、改めて身の引締まりを覚えしました。特に指摘を受けるミスもなく吟じ終えることが出来、安堵いたしました。が、何時もながらの、吟者へ向けられた宗家の鋭い視線と、吟じ終えたあとの温かい内容のあるアドバイスの一言には、吟の道を極められた方の重さを感じ、印象的でした。

当日、多様な部門に受審挑戦された吟友諸氏とも、健闘を讃え合った一日でした。

奥伝を受けるにあたって

丸の内第二 元広 恵風

今から十一年前、明治生命でアルバイトをしていました。昼食時に飯田会長の詩吟指導が有るので行って見ないかと太田翠風さんからお誘いが有り軽い気持ちで見学に伺いました。練習を始めて感じた事は、娘時代と違って声も出ず、節調も仲々覚えられず入会した事を悔みました。岩崎教場長をはじめ諸先生方の粘り強い指導によって、やっと一通りの節調が出来るようになり、この度の奥伝の審査を受けさせて頂きましたが、感情を表わす事は仲々難しく今後の課題として勉強しようと思っております。

審査会場では宗家より「雰囲気

負けないように」との言葉が有り、その場では納得したのですが、いざ自分の吟が始まり「龍虎」の吟題を頂くと用意していた詩文を思わず見詰めて吟じてしまいました。佐々木先生から批評で、奥伝を受ける事は自ら吟の勉強をしようと言う意を決した方々です。それから以後詩文は持たないで下さいとの注意を受けました。自分の吟に対する取り組み方が甘い事を思い知らされ、恥じるばかりです。

良い勉強をさせて頂き、今後とも宜しくご指導お願い致します。

奥伝審査を受審して

鎌ヶ谷分教場長 荻 裕風

文化の日に奥伝審査の吟技を受審しました。生来の方向音痴で会場に到着出来るか心配でしたが、幸い川崎駅改札で魚井・江口両兄にお会いし無事到着しました。温習会前のコングラタリー研修会や、鎌ヶ谷教室の運営等の疲れに体調の不良も重なり、事前の勉強会に欠席し、課題吟の詩文も覚えられないままの最悪の状態でしたが、待ち時間の間に諸先輩の激励や吟友との会話で落着きました。

審査員は佐々木精穂先生で、五人づつ入室し私は「龍虎」の指示がありましたが、自信無く吟譜を見る許可を得てどうか吟じ、俳句は何と出来ました。講評はまあまあだっ

た記憶しかなく、十数回目の受審で初めての醜態でした。挽回に論文に四日かけ仕上げ提出。きたる「奥伝師範」試験には心身の調整をして臨まねばと決心した次第です。

細井・耳塚両兄の誘いで定年直後の十月七日に入会して以来、十三年目で漸く亡母の「奥伝静風」に近付く事が出来たと喜んでおります。

これも、入会時の磯田教場長、岩崎林先生と吟友諸兄弟のお陰と感謝の念に絶えません。

「師・吟友無くして何の己ぞ」と心得て一層の精進を致す所存です。

奥伝審査会に臨む

丸の内第一 江口越風

昨年の文化の日、本部における奥伝審査に参加いたしました。私は実技審査で午後の部でしたが、最初に審査の先生方の紹介があり、代表して宗家が挨拶されました。「私は此の審査が宗家として最後の審査になりました」と、少し寂しい気持ちになりました。

私の今迄の想い出の中に強く印象にありますが、入会の契機となつた飯田教場長（当時）の最初の吟詠がありましたが、機会があつて入会早々宗家の吟を間近にお聞きした時、本当に深い感動を覚えた思いがあります。練習では明治生命本館7F講

堂があります。あの場所での練習は格別で、良き想い出となりました。また丸の内第一教場には、伴平風、林筑山さんの個性派先輩が居られ練習の楽しさを教えて頂きました。一日も早い病氣回復を願っています。当時、井手先生を中心に、平井紅風、大杉緑山、高橋耀泉さんと今は亡き想い出に残る方ばかりであります。いつも明るく、楽しい教場でありましたが、これからは皆さんと共に努力し、練習に励みたいものと思っております。以上奥伝審査を終えて。

準師範試験を受けて

丸の内第一 右ノ子 菱山

十一月三日、秋晴れの休日なのに気持は落着かずの中伝準師範の受験日となっていました。吾が教場からは四名が臨みました。

大会議室で宗家からのご挨拶に始まり、続いて担当の諸先生の紹介と受験に対する注意事項がありました。いよいよ筆記試験が始まりました。頭の中は真白くなって、大パニック。あつと言った間に時間が経過したように思いました。午後は面接です。廊下で順番を待っている間どんな質問があるのか胸はドキドキです。自分の番になり一礼して椅子に座りました。緊張の連続です。面接者は名古屋の富岡精吟先生で質問はニコニコ

と気さくにお話して頂き、質問に答えながらホッといたしました。早々に室を後にしましたが、今回の試験は不合格ではないかと思ひ、今迄の不勉強を反省いたしました。

「詩中に画あり」に魅せられて 丸の内第二 高橋 辰山

八年前のある夏の日、連れられて丸二教場へ、皆さんの吟の上手さ、熱心さに驚き、俺も少しやってみるか。と軽い気持ちで。然し多少好きだった漢詩だが一向に上手くなれず、素質も無いし、仕方ないなあと。然らば詩とは何ぞや？少し探ってみよう。特に中国の詩をと。当然乍ら陶潜、李白、杜甫、白居易、李白、杜甫について。李白の飄逸豪放、杜甫の沈鬱雄頭。同じ時代に生まれ、さすらいの生涯も共通だが、異なった環境の中であろうか、文学の無限の可能性の示唆なのか。

私がひかれたのは陶潜の流れを汲む自然派の詩人である王維、張繼、杜牧等である。「江南の春」杜牧の「水村山郭酒旗風」まさに、はためく酒店の旗、そして山合いの村の風景。また「鹿柴」王維の「返景深林に入り復青苔の上を照らす」夕日の光が深林に射し込み根本の苔を淡く照らしている、何とも言えない風景画である。王維は杜牧の「独柳」

「佳人折るに忍びす悵望して纖手を回す」一本の柳の下で「今頃あの人は何処をホッつき歩いているやら」遠くを眺め細やかな綺麗な手と柳の枝、深水か夢路が描いたら如何ばかりか。

人生はいつでもこれからだ
ハザマ 中川 睦山

平成十七年度 準師範筆記試験
日時 十一月三日 十時開始
会場 サンワークかながわ
通知を受けて緊張した。筆記試験の経験はあるけれど、あの時以来のあの時が思い出せない位久しぶりで気が重い。親切な先輩が去年の出題から今年の傾向を予想してくれる。久し振りに勉強せざるを得ない。

- 一、宗家信条は全部書ける。
- 二、本年度岳精流指標は覚えた。
- 三、詩吟修得手帳心得は暗記に時間がかかったが、何とか書ける。
- 四、宗家の「月のことば」の中から特筆すべきものを選べと問われれば、岳精語録（四）を改めて熟読して次のことばを選ばせてもらう。

平成十六年五月のことば
人生はいつでもこれからだ
吟もいつでもこれからだ
初心を忘れず 精進しよう

会社に長い間勤めて定年を迎えても、そして人生は終りではない。人生に定年はない。受験勉強のお陰で、宗家先生の心の教えに触れて頑張ろうとの気持ちが奮い立つ。改めて先生に感謝したい。そして試験終了。準師範はこれから長い修業の一里塚、この資格に相應しい実力を身につける努力こそが“いつでもこれからだ”である。いづれ準師範らしく自信を持って吟じたいものである。

責任の重さを肝に銘じて
清水 湯山 申山

平成八年十一月、大槻鉾山副教場長に勧められ「興を遣るの吟」伊達政宗と「舟大垣を発し桑名に赴く」頼山陽を最初に学習してから、あつという間の九年の歳月でした。此の間飯田会長、磯田副会長はじめ、村上教場長以下教場の皆様に支えられながら老骨に鞭打ちつつ継続して参りました。特に漢詩の必要性を痛感し、教場長の紹介で平成九年四月から斯界市井の漢学泰斗の故小川雅一郎先生の講義に参加、数年間日暮里の教室に通いました。然し不本意ながら中途退会し、現在は地域の漢詩研究会に参加受講中です。若い頃北京官話を勉強したものの果た

せず、漢詩を詩吟を介して勉強する機会を得ましたことを望外の喜びと感じております。この度、ご推挙下さった栄えある中伝準師範に合格して感慨一人であり、責任の重さを肝に銘じています。まだ未熟者ですが千代田岳精会の一員として流統の名を汚すことなく一意専心吟道の研鑽を生涯学習として精進致したいと存じます。今後共よろしくご指導ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。最後にになりましたが、岳精流日本吟院並に千代田岳精会の益々のご発展と会員並にご家族のご健勝を祈念致します。 摺 筆

中伝準師範試験を終えて
神田副教場長 池田 康山

十一月三日、神田教場の仲間と一緒に試験会場へと向かいました。久しぶりに入學試験のような緊張感を味わいました。全国から大勢の方達が集まり一通り試験に関する説明が有りいよいよ筆記試験の開始です。千代田は前以て模擬テストをして頂いたお陰で、少し落着いて受けられました。そのあと、石井精禎先生の面接、まず教室で最初に必ず真善美を唱えていますが、それは何の為ですか？との質問に一瞬戸惑いましたが、何とか自分の考えを述べ無事終了。

どっと汗が出てきました。千代田に入会して早や九年余り、いよいよ準師範の資格を得られるまで頑張ったんだと、つくづく感慨深い一日となりました。ここまでこれましたのも一重に会長、副会長、教場長や良き仲間を支えられたお陰と感謝いたします。試験が終った後に皆で早々祝いの会、全員疲れを吹き飛ばし、これからは益々頑張ろうと励まし合いながら一日を終えました。

自分に厳しくを心にきざみ
東陽町 細田 舞山

試験当日、JR川崎八時集合。準師範試験に臨みました。何となく落着かずこの歳にして不安で一杯でした。駅に着くと先生が待っていて下さり三人で試験場に向かいました。人で溢れんばかりの広い会場、色々説明がなされた後、答案用紙が配られ試験が始まりました。二人机、隣の女性がガタガタ音を立て、筆入を落したりとまあ落着かないのには、さすがの私も思考を乱され落着いて見直しも出来ず、頭にきて不満だらけで提出してしまいました。次に個人面接がありました。ロビーで暫く待たされましたが、始まるまで以外に早く、一人三分五分位で進みました。先生とは五米位離れて一対一です。「どうして詩吟に入り

ましたか？」と動機を聞かれました。軍人だった兄の事を話しました。酒は飲め々々飲むならば：黒田節の聲が頭に浮かんで来ますと。先生を始め吟友の暖かさに浸って、こうしてこの歳まで長く続けられた事を深く感謝致しております。また、生ある限り去年の岳精流の指標である『自分に厳しく』を心に刻み、細く長く続けたいと祈ってやまない今日この頃です。

準師範試験を受験して

ハザマ 遊佐 峰山

私達は平成八年五月にハザマ詩吟同好会を結成し、同時に岳精流日本吟院に入会させて頂き、ハザマ教場が設立されました。初めて詩を吟じたのは五月七日で、吟題は「江南の春」であった事を思い出します。爾来八年数ヵ月、飯田会長、磯田副会長の適切なご指導、特に鈴木教場長の熱のこもった、しかも暖かいご指導で楽しく吟じ続けて参りました。今までは八回の昇伝審査を受け、一昨年は中伝を、昨年は五段を認許され「峰山」という雅号を頂きました。毎年の審査を受けていけば自然に段位は上がるものと思っていまして、が、教場長から本会の許証規定による昇格基準を見せられ、奥伝、皆伝等高い許証を授けられるには筆

記・面接・論文等厳しい試験に合格しなければならぬ事を知りました。受験に当り、副会長・教場長の特別研修を受けましたが、先生方が岳精流統を学ぶことに誇りを持ち、よく勉強し、自らの力を高める努力をされておられる事が分かりました。高い許証を頂く事が目的ではありません。せんが、先生方の話を理解し、研修後自宅でも勉強し、試験当日はそれなりに高点を得られたものと思っております。先生方の特別研修と同僚の励ましもあって、この度中伝準師範に合格させて頂き光栄に思っております。今後とも老骨に鞭打って、岳精流統を学び吟道に進進する覚悟です。

久し振りの筆記試験

清水 西川 宗山

十一月三日開催の「師範・準師範」試験は筆記試験を伴うもので、幾ら年齢を重ねても筆記の二字が付されただけで精神的な重圧がかかる。吟友の中には、正規の流統詩吟を習得しようとの考えで入会したのに、人様を教える資格を得る受験をする。仰山な気分には到底なれないとの事で参加しなかった人がいた事は事実である。今更ながらという事である。私は、折角八年間習得してきた（正しい発声、正しい音程、正しい

アクセント、的確なる詩心表現、礼節を重んじた態度を学んできた）以上との気持ちと、事前の試験の特別研修もあり気楽な気分を受験した。答案用紙を見ながら、若かりし頃の受験の模様が脳裏に浮かび、当時のいわれた事、即ち解答は自分の出来る答から先に記述することの鉄則に倣って実行終了した。今後は、千代田の本来からの目的である吟友二百名を目標とする吟友の獲得と、吟の更なる習得の研鑽に努め精進したい。

準師範に合格

ハザマ 高橋 暁山

この度、準師範の合格通知を頂いて光栄の至りです。私達の詩吟の練習は、鈴木教場長、ときには飯田会長が指導されますが、必ず宗家信条「真善美」と「岳精会詩」松口月城作を合吟してから練習を始める事になっていきます。入会時には何か違和感があったが、今は岳精会の教育であると考えようになった。百吟は百葉に勝ると言っている。自分達も今から素直な気持ちになって、岳精語録を信じて詩を吟ずること、真なるもの、善なるもの、美なるものが自分の心となれば、自分の心は健康の基となり、家族共に幸せな毎日を送る事が出来る。

漢詩 (六)

清水副教場長 大槻 鉾山

春 望 杜 甫

国破れて山河在り
城春にして草木深し
時に感じては花にも涙を濺ぎ
別れを恨んでは鳥にも心を驚かす
烽火三月に連り
家書万金に抵る
白頭搔けば更に短く
渾べて簪に勝えざらんと欲す

作者並びに時代背景については、前号で渋谷リーダーが解説されているので、ここでは省略する。

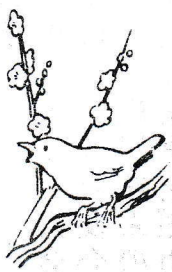
読み方 春望：春の眺め 国破れて、

：安祿山の反乱軍によって国都長安が陥落し、宮殿や街などが破壊された事をいう 城：都城、街のこと。中国の都市はその周りが城壁で囲まれていた 花にも涙を濺ぎ：花を見ても涙をはらはらと流す 別れを恨んでは：家族の別れ、この当時家族は羌村という地方に逃れ、杜甫は賊軍に長安に幽閉されていた 烽火：敵襲を知らせる狼煙。戦火の意 三月：三か月。長い間 家書：家族からの便り 万金に抵る：沢山の金額に相当する意で、非常に手に入り

難い事をいう 渾べて：すっかり 簪に勝えず：国を憂い家と思う心労のため、白髪が短く薄くなったので 簪を髪に挿しても持たない 通釈 国都長安は戦乱のために破壊されてしまったが、自然の山や河は昔どおりに残っている。この城内は春になっても、草木が深く生い茂っているのみに、人影すら見えない。自分はこの痛ましい時世に感じて、平和な春ならば花を見て楽しいはずなのに、かえって花を見ては涙を流しはらと流し、家族との別れを恨み悲しんで、心を慰むべきはずの鳥の声にも心を驚かしているのである。戦火は三か月もの長い間続き、家族からの便りもなかなか来ないので、万金にも相当する程貴重に思われる。自分の白髪を搔くと、心労の為に髪の毛も短くなってしまい、冠をとめる簪も挿せない程になってしまった。

鑑賞

前半は眼前の景を見て、変化する人の世と変わらない自然とを対比させて感慨に耽る。後半は国を憂い妻子を思い、心労によって急激に衰えた身を嘆いている。



新宿教場十一月一日付けで昇格

一年前に分室として発足した新宿が、目覚ましい会員獲得と、林神田教場長のご支援で、僅か一年と言うスピードで千代田九番目の教場に昇格しました。や、高齢化現象の見られる千代田の若返りの柱として、今後益々の発展を期待しましょう。

新教場のご挨拶

新宿教場長 橋本 淳山

昨年十一月一日に、女性七名、男性六名計十三名で、新宿教場をスタートさせて頂きました。

一年前の十一月、お世話になりました神田教場から、分室として仲間三名と共に何も解らぬまゝ、不安な一歩を踏出しましたが、その間、皆様から暖かいご声援を頂き、心よりお礼申し上げます。

大変頼りになる仲間と一緒に、ひたすら「楽しく吟を学んでいきたい」一念で、気が付けば教場。目標に向っていく事の楽しさと厳しさも、多少経験し、今、実ったことの喜びを全員で味わっています。

これから生き生き伸びやかに、夢を追いかけて参りたいと考えています。新参者でございしますが、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

平成十八年度昇伝審査吟題

前号で発表の漢詩に続き短歌、俳句が決定しました。

中伝 短歌

天の原

夏は来ぬ

奥伝 俳句

夕立が
閑かさや

阿倍仲麻呂
吉井 勇

種田山頭火
松尾 芭蕉

『新会員紹介』

◇丸の内女子教場
磯田 昭子さん（八月入会）



誘いしておりましたが、趣味の旅
行に当教場の山手遥泉、板橋禮泉、
本多敦子さん達も度々参加、その
折の勧めのお陰で、やっと見学に
見え健康のためにもと、早速入会
を決定されました。

8本の美声で末が楽しみです。

大倉 明彦氏（十月入会）

明治安田印刷配送機の現役の方
です。時々コピーをお願いの折、
張りの有るいい声に、初対面から
詩吟をお誘いしてました。当教
場の黒一点として、これから心強
い期待の星です。
とても熱心で私達にとっても良
い刺激になりそうです。

◇ハザマ教場
中内 博司氏（十二月入会）

ハザマOBの「社友会懇談会」
の席上、二宮祥泉さんの名吟を聴
き、即入会の決意を固めたこのこ
と。初日の教場練習で、早速連吟
をかって出て、見事な吟に先輩諸
氏を唸らせました。十五年のキャ
リアを持つ園芸（ラン）と磯釣り
が趣味。昭和十六年生まれ。当教
場最若手のホープです。

◇新宿教場
手塚 勝子さん（七月入会）

加藤有泉さんに誘われ、詩吟を
聞いた事もないし、難かしそうで
迷っていました。が、一度見学をと
勧められ、神田のカラオケ館で橋
本・酒井先生にお会いし発声練習
和気霽々とした教室の雰囲気、
お腹から声を出してストレスの解
消になるし、健康にもよく一石二
鳥で良かったと思っています。

松里 裕子さん（七月入会）

とても若くて、明るいお嬢さん
を迎え、皆喜んでいきます。名前は
「ひろ子さん」教場長の親戚で廿三
歳。若さの強みでしようか、伸び
のある綺麗な高声がさらさらと出
てきます。外資系の会社勤務で、
一日中英語で仕事をされています。
入会の動機は先生がとても楽しそ
うなので、魅かれたとの事でした。

岡部 貞男氏（十月入会）

酒井帆山さんの元職場の大先輩
です。九州男子で長身のスラリと
したヨカ男です。
テニスが趣味で、毎日曜日には
一日中コートに立たれるとの事、
明るいスポーツマンです。ただ、
一寸軀をこわされたとかで、吟を
やることで身体の内からの健康回
復を目指したいと言われています。

◆和田 神泉氏（ハザマ教場）

十月十一日ご逝去されました。
享年八十六歳。謹んでご冥福を
お祈り申し上げます。

編集後記

また、一年の齢を重ねて春を迎え
る。去りし一年は政治的に大変革の
年だったが、民営化の絶叫にマスコ
ミも大多数の国民も踊って、危険な
領域に入りつつある感じだ。建物の
構造全体の確認検査の大ミス、税金
の引上げ、医療保険の負担増、近隣
諸国との国際摩擦、そして憲法の改
正となると軍靴の響きが聞こえて来
そう。続発する児童殺害事件も政治
と無関係ではない。この国民に、こ
の政府。これが戦争を体験し、戦後
の奇跡的復興を担ってきた我々の世
代を含めた民意では無いはずと無性
に思っています。
（八田）